

Ⅱ 地域別適正化ビジョン

地域別の現状や学校の将来予測について

地域別人口及び学校の児童生徒数・学級数推計の方法

学区別人口5歳階級人口

- 全市推計人口(中位推計)を学区別人口比率で按分し算出。
- ※学区別人口:全市推計と同手法を用い、合計特殊出生率固定、学区間人口移動無の条件で推計し、学区別出生率差等を考慮

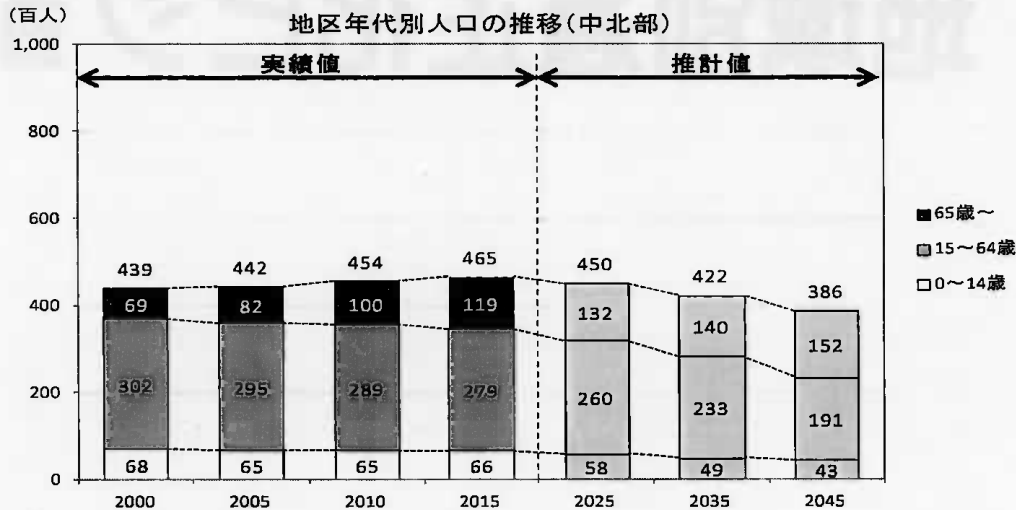
児童生徒数・学級数

- 学区別5歳階級推計人口を年齢別に等分し、全市平均就学率を乗じて児童生徒数を算定
- これを35人/学級で除して学級数を算出

地域別の現状や学校の将来予測について

地域人口の推移

➤ 総人口は近年微減傾向ですが、30年後の推計では、総人口が17%減少、年少人口は約35%の減少が予測されます。



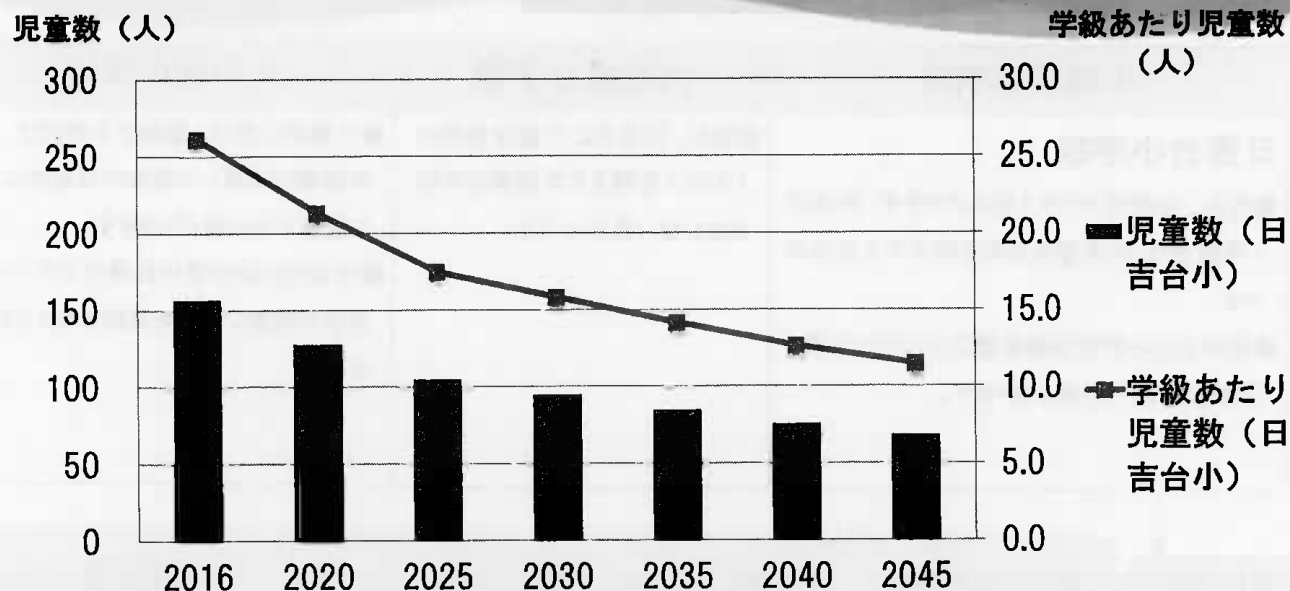
地域別の現状や学校の将来予測について

学校の将来【児童生徒数・学級数】

			小学校					中学校			
			雄琴	日吉台	坂本	下阪本	唐崎	計	日吉	唐崎	計
児童生徒数(人)	現状値	H28(2016)	357	157	381	722	922	2,539	702	414	1,116
		H32(2020)	366	128	394	754	843	2,485	692	410	1,102
	推計値	H37(2025)	336	105	363	707	739	2,250	706	385	1,091
		H42(2030)	309	95	320	644	657	2,025	616	331	947
		H47(2035)	288	85	297	605	611	1,886	569	300	869
		H52(2040)	264	76	278	571	576	1,765	533	282	815
		H57(2045)	244	69	256	537	543	1,649	496	266	762
学級数(学級)	現状値	H28(2016)	13	6	13	24	29	85	21	12	33
		H32(2020)	12	6	12	24	26	80	21	12	33
	推計値	H37(2025)	12	6	12	24	24	78	21	12	33
		H42(2030)	12	6	12	20	24	74	18	12	30
		H47(2035)	12	6	12	18	20	68	18	9	27
		H52(2040)	12	6	12	18	18	66	18	9	27
		H57(2045)	12	6	12	18	18	66	15	9	24

地域別の現状や学校の将来予測について

学校の将来【日吉台小学校の将来推計】



地域別の現状や学校の将来予測について

学校の将来【余剰校舎面積の将来推計】

大津市公共施設適正化計画の 計画期間	小学校						中学校			合計
	雄琴	日吉台	坂本	下阪本	唐崎	計	日吉	唐崎	計	
第1期 (～H34)	0	1,485	1,137	0	0	2,622	0	0	0	2,622
第2期 (H35～H44)	0	↓	↓	0	0	↓	53	0	53	2,675
第3期 (H45～H54)	0	↓	↓	0	1,248	3,870	↓	1,015	1,068	4,938
第3期後 (H55～)	0	↓	↓	0	↓	↓	582	↓	1,597	5,467

参考

市内小中学校の平均校舎面積(教室、廊下等含む) 5,796㎡

学校規模等適正化の検討の進め方について

教育的観点から検討が必要な学校

小規模な学校	大規模な学校	その他の学校
<p>日吉台小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現在、全学年でクラス替えができず、将来は1学級当たりの児童生徒数も減少する見込みです。 ●現時点から学校規模等適正化に向けて検討を進めていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現在、将来共に児童生徒数が1,200人を超える大規模な学校は生じない見込みです。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小規模な学校と隣接する学校は、通学区域の見直しや統合の可能性について考慮する必要があります。 ●将来的には中学校区単位での小中一貫校の設置に向けた検討も考えられます。

検討項目

通学区域の見直し 学校統合 小規模特認校制度 合同授業 小中一貫教育 など

学校規模等適正化の検討の進め方について

地域コミュニティにおける学校の役割の観点からの留意事項

- 通学区域の見直しを行う場合**
 - ・コミュニティ分断の回避、一体性維持への配慮
 - ・新たな通学区域における登下校の児童生徒の安全確保
- 学校統合を行う場合**
 - ・学校と地域の関わりを深める工夫
 - ・旧学校施設利用時の多様な機能維持
- 学校と他の施設との複合化を行う場合**
 - ・子どもの教育環境や安全を確保する上で魅力ある施設と複合化
- 小中一貫校とする場合**
 - ・小学校が中学校に一体化される場合の旧小学校施設の多様な機能を維持

学校規模等適正化の検討の進め方について

財政的観点からの留意事項

●減築や他用途転換を行う場合

・教育環境の向上のための棟単位の減築や用途転換による施設複合化は、大規模改修時の実施が最適

●学校統合を行う場合

・校舎の必要面積が不足する場合は、増築が必要となることに留意

・建築年が古い学校を統合先とする場合は、延命化のため大規模改修や将来的な改築の検討が必要

●小中一貫校とする場合

・既存校舎活用の場合、増築や児童生徒の年齢層拡大に対応した施設改修が必要

3 質疑応答

4 意見交換

子どもたちの教育環境について

話題1

お住まいの地域の小学校・中学校の子どもたちの様子をご覧になっての感想

話題2

これからの子どもたちに身につけてほしい力とは

話題3

子どもの育ちを支える学校の役割、家庭の役割、地域の役割とは

本日はご参加いただきありがとうございました

● アンケートのお願い

資料とともにお渡しいたしましたアンケートへのご記入をお願いいたします。会場にアンケート記載場所を設けております。

● 「大津市立小中学校規模等適正化ビジョン」本編の配布

本日、概要版を配布いたしましたが、本編は、アンケート記載場所に用意しておりますので、必要な方はお持ち帰りください。なお、大津市HPでもご覧いただけます。

(<http://www.city.otsu.lg.jp/soshiki/070/2401/g/keikaku/1456398984536.html>)

大津市立小中学校規模等適正化に関するご意見・ご質問は・・・

大津市教育委員会事務局 教育総務課企画総務係

電話:077-528-2630 FAX:077-523-5735

メール:otsu2401@city.otsu.lg.jp